

带状疱疹ワクチン、2種類のワクチンの違い

带状疱疹は水痘・带状疱疹ウイルス(VZV)といわれるウイルスが原因で発症する病気です。みなさまは带状疱疹にワクチンがあるのをご存知ですか？

小さい頃に水ぼうそう（水痘）にかかったことのある方は、すでに水痘・带状疱疹ウイルスに対する免疫を獲得しています。しかし健康な状態の人もウイルスは脊髄に近い神経節で眠っている状態なのです。

ストレスや疲れなどにより免疫力が低下した時、眠っていたウイルスが活性化し、皮膚の発赤や水ぶくれ、神経痛などの带状疱疹の症状を引き起こします。皮疹は1週間程度で改善することが多いのですが、やっかいなのが神経痛です。ピリピリとしつこい痛みが後遺症として続き、ひどい方は年単位で症状が残存してしまいます。発症部位は全身どこにでも起こりうるので、場所によっては失明や顔面神経麻痺が残存される方もおられます。

また、年齢を重ねることでこのウイルスに対する免疫力は低下するので、50～70代が最も带状疱疹の発症数が多いですが、若い人に起こることも珍しくはありません。まれに繰り返し発症される方もおられます。ワクチンを打つことによって低下した免疫力を高めることができます。

ワクチンを打てば必ず発症を抑えられるわけではありませんが、発症率を下げたり、発症しても症状を軽くしたり、带状疱疹後の神経疼痛を軽減する効果が望めます。

ワクチンは現在2種類あり、値段や特性が違うためどちらを打つべきかで悩まれる方もおられます。以下の表に違いをまとめましたので、ご参照ください。

	ビケン	シングリックス
特徴	弱毒化生ワクチン	不活化ワクチン
効果	発症予防 50% 带状疱疹後神経痛 30% 軽減	発症予防 97% 带状疱疹後神経痛 88% 軽減
接種回数	1回	2回（2か月間隔で）
副反応	注射部分の痛み、腫れ 倦怠感など 症状は 3日～1週間以内	注射部分の痛み、腫れ 倦怠感、頭痛など シングリックスの方がやや副反応強い症状は 3日～1週間以内
持続期間	5年程度	9年以上
利点	価格が安い 副反応が少ない	高い効果
欠点	予防効果はシングリックスに比べると劣る	2回接種する必要がある 注射部分の腫れが強い

★ 予防接種の目的である発症・重症化予防、带状疱疹後神経痛の症状軽減を考慮するならシングリックスをお勧めしますが、接種を2回受ける必要があり高額でもあるため、ご検討の上選択をしましょう。